

## 令和2年度 名張市地域活力創生会議 会議録【会議録】

日時：令和2年7月2日（木）

午後1時30分～3時30分

場所：名張市防災センター 2階研修室

### 1 市長挨拶

百年に一度の国難と言われているコロナウイルス感染症、我々も3月から対応、対策に追われてきましたが、6月に入ってから緊急事態宣言が廃止され、徐々に経済活動や社会生活が進みだしてきたところでもあります。今日は東京で感染者が100人を越えたと発表され、大変危惧をしているところですが、我々はこのコロナウイルスが人類に、あるいは日本国に何を伝えようとしてやってきたのか、これについて検証する必要があるのではないのかと思っています。私が二つだけ感じている事がございまして、一つは、医療と介護の提供体制のキャパ以上に人口が集中してしまった都市があるということです。もう一つは、経済面で言いますと、効率を求めて人・物・金・仕事を都市部に集中させる一方で、賃金の安い所で生産していくグローバル化がございまして。この二つの事は、経済活動を活性化していく為に避けることは出来ない常套手段ですが、危機管理の面が欠けていたのではないのか、もっと地方を有効活用していただくような経済活動があったのではないのかと思っています。先月の18日の総理の記者会見で仰った「集中から分散」、その社会構造を変えていく、まさにそのパラダイムの大転換で、その事を骨太改革、骨太方針に盛り込んでいき、その決意の程を述べられておりました。これからは政策の中心に、このコロナウイルス感染症で学んだ事を添えて行くと言う事でございます。私も、今月の14日に全国市長会「まち・ひと・しごと創生特別委員会」を招集し、我々、地方におきましても、これまで以上の政策を推進していくべく提言書をまとめていきたいと思っています。この流れの中で、この度の本市の地域活力創生会議、どうか一層のご指導を賜りますよう何卒よろしくお願いを申し上げます。

### 2 委員紹介

事務局より【資料1】に基づき委員紹介

### 3 名張市地域活力創生会議の設置について

事務局より【資料2】に基づき説明

(市長が議長となり会議を進行)

### 4 地域活力の創生に向けた取組について

事務局より【資料3】に基づき説明

## ○意見交換会

(委員)

資料5ページで、昨年度の移住者数が28世帯64人という事であるが、世帯で移住されるとなると必ずどこかで仕事をいなければいけない。その就職先が市内なのか、市外なのか。そういったところをフォローはされているか。移住する際には仕事は関連するので、その辺りの情報も発信すれば、移住促進につながると思う。

(事務局)

本市の移住者数については、市や県が行う空き家バンクや起業支援など移住施策の支援を通じた数字である。起業や就業案内など、仕事に関する情報提供をさせていただいた方などはできる限りフォローさせていただいているが、全ての方について、どこへ就業されたかなど把握していない。

(委員)

就業先の具体的な例があると、こういった会議の場が発信の機会となると思う。こう言う例で移住された、また、名張にはこういうチャンスがあるという様にモデルケースとして発信できれば宣伝にもなると思う。大いに具体的な例を掘り下げて、調査を出来る範囲でしていただければと思う。

(市長)

おっしゃる通りで、次の会議において調査して報告をさせていただく。東京23区から来られる方には100万円支援するという移住支援施策の一つ「移住支援金」があるが、これを活用してこられた方がどこへ就業したのか、当然ながら把握させていただかなければならない。今後の議題としても重要になってくる。

(委員)

我が社は趣味嗜好性が強い商品を扱っており、それが魅力で名張へ移住されて、現在、夏見の本社で従業員が50数名、その内の5名が市外から移住してきて働いている。大阪をはじめ県外から5人で、全員が20代男性で独身である。先月、三重県オンライン合同就職説明会に参加し、その折に移住された方にアンケート調査を行った結果を紹介させていただくと、名張の印象としては「以外と大阪へのアクセスがよい」、「治安がよい」、「ベッドタウンとして発展してきたのでスーパーも近くて便利」、「冬季は雪が積もるので注意」、「ちょうどよい田舎感」、「生活に必要なスーパー、コンビニ、コインランドリーがあり、一人暮らしには十分な環境」、「名張駅は近鉄特急が停車するので大阪や名古屋へのアクセスがよい」、「高齢者や子供が住みやすいまち」、「みどりに囲まれ自然豊か、大型スーパーやコンビニもあり利便性がよい」、「自然にあふれていて、都会ではできないような体験ができる。赤目滝はきれいで忍者の文化に触れることができ、キャンプ場もある」、「普段は自然豊かな土地で心豊かに過ごせる。休日は奈良や大阪のアクセスがよく、電車や自家用車で出かけることもできる」・・・など、20代の男性からは自然が多く、アクセスが良いといった印象が見受けられる。居住歴は2年以上6年くらいである。

(市長)

本市の「売り」の部分など、貴重なご意見を頂戴した。

(委員)

私自身は大阪から移住してきて農業をはじめ、市のサポートをいただいて8～9年くらい経ち、今は、農福連携のモデルケースとして言われるようになった。資料7ページの昨年度事業の報告の中で「認定農業者」の数が目標値を達成しなかったことについては、高齢者が更新をされなかったことが要因となっていることが寂しいと感じる。高齢者となって後継者がいないので更新できず、商売でいうところの廃業となってしまっている。認定農業者数のうち、新たに認定農業者となった数字は把握されているか。新規の方は、これから農業ビジネスをしていく意欲にあふれる方なので、育てて行ってほしいと思うし、私自身の経験から思うことは、伊賀名張地域はお米が盛んなので、コメ農業をされる方は、仲間ができると思うが、水耕栽培などの新しい農業をされる方にとっては非常に孤独。ぜひ、新規の方に支援をお願いしたいのと、農林水産省の助成制度などの情報提供もしていただき、認定農業者になるメリットも発信してほしい。

(市長)

非常に重要なご指摘。新規の方には寄り添い伴走型の支援を心掛けたい。

(委員)

地域おこし協力隊は採用されているか？

(事務局)

昨年度、募集を行ったが採用には至らなかった。現在、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で募集をしていないが、採用に向けて調整をしていきたい。

(委員)

名張市の高齢化率は出しているか？

(事務局)

資料21ページに掲載のとおり、高齢化率は、令和元年は31.8%となり、全国28.4%、三重県が29.7%なのでそれを上回るペースで高齢化が進んでいることになる。

(市長)

これらは本市が3万の人口から8万に増えた当時、京阪奈地区からたくさんの転入者があったが、これらの方がリタイヤされる年齢となったことが一つの要因。

(委員)

人口減少がさらに加速していくことを考えれば、西三重のブロックでみると、曾爾村や山添村などの住民がある一定の年齢になって医療施設が整っている地域へ移住を考えた時、東京や大阪や名古屋へ移住することは考えにくく、名張市が周辺地域からのプラットホームとなるのでは。高齢の方などが名張市へ降りてこられるように基盤作りをする必要がある。中核都市としてのプラットホーム作りについて、空き家の整備など、システム化していく必要があるのでは。また、最低限の環境を整えた状態で移住者を受け入れる。その間は別

の住まいを利用するなど、指定管理者をつかう。まずはプラットホーム作りをして、人口を増やすのではなく減少を緩やかにしていく方向で考える必要があるのでは。

(市長)

国のまち・ひと・しごと創生会議の委員をさせていただいたとき、石破大臣の時代に「CRC」の考えができた。都市部で働いたあと、一定の年齢が来た時に田舎でゆっくり過ごすというステータスのように、地方へ来ていただく方に社会資本を整えるという仕組みを掲げていたが途中で頓挫した。というのも、若い時に働いて都市部で税金を納めて、これから医療や介護の費用が掛かる時に地方に来てもらっても困る・・・という声もあった。それでも、地方へ来てもらうことにメリットがあると思うので、国へは提言させていただく。例えば、現在も介護高齢施設からの転所の場合は住所地特例がある。ただ、元気な間に来てもらった場合は、それがないので、何歳以上の方は住所地特例の対象となることや、一時金なども一つの方法である。

また今、移住支援金として東京圏から地方へ移住してきた場合は100万という支援もあるが、農業も一つの起業として考えることができないか、また若者であればテレワークも一つの就業の形にならないかなど国へ提言していきたい。

(委員)

今日の報告の中において、毎年、素晴らしい成績を残すことはあり得ない事で、私が指標を見る限り、名張市は色々と考えて頑張っていると思う。優れた成績を残した取組は、主要な業績として市民に訴えてもよいのでは。また、今後さらに別の事業に展開していけばよいのでは。

(市長)

名張市の将来推計人口が上方修正され、人口減少が緩やかになっているのは、これまでの取組の成果としてあらわれている。これらは、市が頑張っているのではなく、市民の皆様の努力や委員の皆様の適時適切なお指導、こういうものがあつた中での成果であると思つている。委員の皆様からもご指導があつたものも、今後の提言の参考にさせていただきたい。

(委員)

現在、津市に居住しているが、名張のイメージとしては大阪に近く交通アクセスがよい。郊外型の団地もたくさんあり、その中にも教育機関が充実して「子育てのまち」という印象がある。昨今のコロナの影響もあり、働き方がガラリと変わる可能性がある。そんな中で交通のアクセスの良さ、環境の良さをPRして移住促進に結び付けられないか。

銀行には支店が都市部にあるので、これらと連携をとって、このピンチをチャンスに変えて行ければ。県内の市町からしてもうらやましいくらい、豊かな自然とアクセスの良さ、これを生かされればと思う。

(市長)

名張へ移住されているものの内訳として、伊賀市からの移住が多い。これは伊賀市と本市の棲み分けがされてきているのかと感じている。伊賀は観光と産業のまち、名張は暮らしの

まちとして、これまで、市民の皆様が取り組んでいただいた成果として選ばれているのではと思う。また、宇陀市や曾爾、津市の美杉等からも選ばれて来ていただいている。もう少し、プラットフォームとしてなれるものが確立されればと思う。

(委員)

今回の特別定額給付金の支給事務では、名張市が非常に早く事務を行っていただいた。職員の中でも、直接コロナの影響を受けていないから受け取っていいものかという声も聞いたが、受け取って市内で消費するようと呼びかけた。そのおかげで、社協へもいくらか寄付を届けていただいたり、また、その後、商工会議所の食事券といった非常にスムーズな流れで行っていただけたと思う。今、このコロナ禍で派遣や非正規労働者の方などは非常に厳しい状況におかれている。社協では、コロナの影響で減収となった方に緊急小口資金の貸し付け事業（1世帯当たり10万円～20万円）を行っており、3月25日の事業開始から6月末現在で224件の相談があった。これは、三重県社協を通じて支援する事業で、県の審査を通らないといけないが、119件が審査を通過しており、1,870万円の支給となり、三重県全体では5億円の貸付となった。6月に入って、相談件数が落ち着いてきたところであるが、市内の企業でも派遣切りを行うところがでており、貸付事業の相談も第2波がくるのではと心配している所である。

この名張市の3つのプロジェクトは有効に機能していると思っているが、社協としても、市内の企業の方に賛同いただき、企業で売っている商品を百貨店の商品の一つと位置付け、お客様が買っていただいて利益があった一部を赤い羽根の募金につなげていただくこととしている。この事業には5つの事業所が賛同しており、これを何に使うのかというと、市の「若者定住プロジェクト」に賛同して、学童保育の施設整備に対する支援や、養護学園の児童が進学する際の支援などを実施していく。こういった目に見える支援が、市民には伝わるのかなと感じている。いただいた寄付金はこう使うとPRできればと思う。また、全国住みよさランキングの1位になった石川県野々市市では、ホームページなどでもランキングをアピールしていないが、子育て施策に力をいれているようで、この辺りが選ばれているのかと思う。

(委員)

人口の推移の資料なかで、人口が減少しているが世帯数が増えている。これは核家族化が進んでいることが要因かと思うが、周辺をみているとアパートが増えていて、一時的な居住地とされている印象がある。また一方では空家が増えていることもあり、裏表の関係になっているのかとも感じる。また、移住者の内訳において単身者なのか、家族なのかで今後の施策も変わってくるのでは。子育て世帯に対しては、生活しやすいのかと感じるが、働くという観点から言うと、介護・看護のために仕事をやむを得ず離職する場合がある。介護にしても、出産にしても、一旦離職をしても次に仕事に戻れると安心感が大事で、いくつかの企業では、会社を離職しても登録しておけば再就職ができるという取組をしている。行政で支援をしてもらうのは難しいが、こういった取り組みを増やすことに対して働きかけをしても

らえれば。これらが出生率の向上にもつながるのでは。

(市長)

政府が重要視しているのが「医療」と「失業者を出さない」。失業者が増えると経済が回りだしても復興に時間がかかる。そのための政策を一生懸命している。この伊賀管内、名張は失業者が少ないので安心しているが、今後、注意深く見守る必要がある。介護・看護離職や子育て離職についても取組をする必要がある。

(委員)

資料16ページの資料にある観光DMOの事業部長として携わっていた。まずは土台作りから始めるということで、1年半、他市村と連携して進めてきたが、たくさんの課題に気づかされた。観光に対しての目的や思い、また地域と行政との連携ができていないか等、市村によって全く違う状況であった。名張市は行政と民間業者との壁がなくなっていると感じている。そのことでスムーズに事が進むこともある。この事業で、外国人誘客の取組として、本来ならこの時期にベトナムからの修学旅行や、フィリピンからの旅行商品の開発など販売もスタートしたところであったが、コロナ禍で全て中止となり、旅行業界は崖っぷちで非常に厳しい状況。そんな中で変えていく必要があり、外国人誘客より国内消費を見直す機会である。遊ぶだけの観光ではなく、全ての業種と連携して、最終的に移住につながるような方向で考える必要もある。現在はコロナ禍ですべての業種が厳しく、製造も縮小され、物流も止まって、外国人労働者も行先を探す状況。そんな中で、これから必要となってくるネット環境やキャッシュレスが日本は非常に遅れている。これらの整備が今後は加速していくだろうし、インターネットに頼ることが加速し、人的な労働が縮小されていくのでは。そんな中においても、「人と人のつながり」は非常に大事な部分であると思うので、その辺りが見せることができればと思う。

(委員)

私自身が東京から移ってきて、名張に住んで25年くらいになるが、当時は夕刊がなく、またテレビも写りにくいなど、以前の生活と大きく変わった。これらの経験をとおして感じたことは、他所から移り住んできた時にどこに住んでも同じということはないということ。昔の生活の話をしていると、都市部で育った方の暮らしと地方で育った方の生活とでは環境が大きく違うと感じることがある。現在はその差がそこまで大きくはないと思うが、例えば通信の環境であるとか、教育でいうとタブレットの整備の進捗状況など、同じ教育でも住むところによって違いがあるので、そういったところをもっと平準化されて、生活の質が保てないと都市部と同じ土俵には立てないのではないかな。

(市長)

アンケートで都市部の若者の25%、東京の若者の35%が地方での生活を望んでいるとの結果がある。それに向けた対応策が必要である。

(委員)

ふるさと納税の返礼品をユニークなものに工夫されて、受入額が増えている。内訳として

一人の納税額が増えたのか、また件数が増えたのか。年々、同程度増加していけるよう継続できるよう、特徴的な返礼品によるPRや、市民ひとりひとりがPRしていけるようになれば直結できると思う。そのためには市民の満足度を上げる必要がある。

(委員)

待機児童が解消されて、ほぼゼロ。小規模園なども増加して待機児童が解消されつつあるが、そこで市内の保育士の人員が不足している状態にある。そんな中で、名張市の保育所で働きたいと県外からの問い合わせがあり、今年も奈良県の方を採用している。その方達が、今後、家庭を持って名張市に定住してもらえたらと思う。

また、保育施設が増えた分、定員に満たない施設も出てきている。受入定員に対して保育士を確保する必要があり、そんな中で定員に満たないと運営費が回らなくなるので、市の支援もお願いしたいところである。

また現場で聞く声として、晴れた日の休日は公園がいっぱい、雨の日は遊び場がないのでスーパーで過ごしているという声を聞くので、子どもが遊べる場所を充実していただければ。

(委員)

15～29歳の年齢層の転出が多い状況を見る中で、近大高専としても何らかの対応をする必要があると考える。本年の就職活動はまだ始まっていないが、すでに7割くらいが決まっており、割合としては、県内に3割、市内には1割弱くらいである。市内に定住させるような働きかけが必要だと感じており、企業の合同説明会には全体40社のうち、市内企業は10社とかなりの割合となっている。また、地元志向の学生もいる。今日の会議で思った事であるが、「若者定住プロジェクト」の取組を解かりやすいパネルにして、就職説明会の中で市としてこのようなことをやっているとしてPRできれば。

(市長)

市内の高校生徒数が減っており定員割れしているが、近大高専の卒業生が意外と地元でいてくれる。伊賀管内の企業も近大高専の生徒に来てほしいというところも増えている。

(委員)

海外で孤独死が多くなっている国もあり、人との接触を密にするように言われてきたが、今はコロナ禍で人との接触しないようになっている。世間的にはソーシャルキャピタル(社会的資本)の概念が重要視されている。地域で見える化して見守れるようシステム化する必要がある。

(委員)

コロナ禍で製造や物流がストップしている中で再認識したのは、地域内連携でできないかということである。観光農園で採れたものを一次加工して保育園や小学校、高齢者に向けて食材として提供するような流れを作れないか。また、飲食店のメニューをつくって六次化して行ってテイクアウトなどで提供したり、またお弁当などは日持ちもしないので加工品で提供するなど、地域内で消費できるような流れを確立できないか。

(委員)

移住施策に関して、3世代移住を打ち出してはどうか。高齢者世帯にとっては医療や介護の問題がある。また若者・子育て世帯では、就学や就職による転出がある中で一時的な移住の可能性もある。3世代同居のメリットとしては、一緒に住むことで、おじいちゃん、おばあちゃんが孫と住んで交流することで元気であることができ、長く定住してもらえるのではないかと。

もう一つは、保育士不足の対策で、三重県が行っている事業で、教諭の資格を取得し県内で就職する場合にはその取得費用を助成するという制度がある。これを名張市でも採用して保育士に助成するようにはできないか。

(統括監)

重要な提案をいただいたと思う。今、コロナ禍で、一年先またそれ以降も、引き続き課題となってくるかと思う。現在、直接の支援ということでは特別定額給付金の支給があるが、これからまた半年なりの時間が経過してくると、全ての方の状況が変わってくると思うので、各分野で意識した対策を検討していく必要があるかと思う。

また、3世代移住というご意見については、「3世代同居」や、ご実家の近くにUターン移住してくる「近居」など、つつじが丘や桔梗が丘などの住宅地でこういった事例も見受けられる。こういったものも含めて3世代同居や近居などをPRしていくことを検討していきたい。

また、保育士の件で、就職相談会では新規の学生が少なく、また結婚や出産によって長期間就業される方が減ってきている中で、また、復帰することができるよう資格をもっている潜在労働者の掘り起しなどができるよう努めたいと思う。

(委員)

今後、私自身が高齢になっていくことやビジネスマンの観点から気づいた意見として述べたい。コロナ禍で引きこもりの状態にもなり、色んなことを考えさせられて、気づかせてもらった。ビジネスの点で、農福連携や観光農園を運営していく中で、どうやって人と会うかを考えた時に、WEBミーティングなどを活用した結果、時間や移動に縛られないので活用できたが、そんな中で課題としてあったのが、高齢者や障害者が元気で過ごしているか会いに行きたいができなかったことである。もしタブレット機器やネットなど環境が整っていればとその必要性を感じた。コロナは一旦、終息はしても、今後、第2、第3波の感染拡大が必ず来るなかでは必要になってくるのではないかと思う。

(統括監)

今後もこの状況が続くと想定される中で、行政側も環境が整っていない状況にある。必要な整備を行って、地域へ提案ができればと思う。

(委員)

今回のコロナ禍で出張の機会も減り、コミュニケーションツールとしてZOOMなどを頻繁に利用する機会が多くなったことは成果かとも思う。こういったものを、地域や高齢者

へも使用できるような環境があればと思う。

(委員)

通信環境においては、市内全域に光回線が整っているので、今後、公衆W i - F i を市内の何カ所かに設置してネット環境を整えていく必要があるかと思う。ただ、タブレットなどの機器を全市民に配備しようとするサイクルが短いので対応が難しいかと思う。

(委員)

都市部から通信環境が整ってきていると思うが、田舎ほどその環境が必要だと思う。

以上